

観音寺中学校 道德通信 6月号

5月から6月にかけて、体育大会、中間テスト、修学旅行、五色台学習と、次々に行事がありました。集団での活動を通して、子どもたちはたくさんのことを学び、日々クラスの絆も深まってきているようです。



今回は、3年生の道德の授業内容を紹介します。

『がんばれ おまえ』 【向上心・個性の伸長】

少年は、高校に入学すると人気者になる。しかし、そんな少年は中学校時代にいじめられてつらい思いをし、今は「おもしろいやつ」を演じている。少年はみんなと別れ一人になると、ぐったりと疲れ切ってしまう。同級生の少女を好きになると、そんな面も含めた自分を知ってほしいと思うようになる。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

- ・こんな自分はいいい、こんな自分はいやだ…。いやだなと思うことはたくさんあるし、寝る前に考え過ぎて落ち込むこともあるけれど、それは自分だけじゃないんだなと思って、少し心が救われた気がした。
- ・よそいきの自分も、本当の自分も否定せず、どちらも大事にしたいと思った。臆病で嫌われたくないと思うから、自分をつくってしまうけれど、その気持ちも自分のものだから、否定しないようにしたい。
- ・新しいクラスになったこの時期だからこそ、嫌われないように演技してしまうことがあり、この物語に共感した。素の自分を出し過ぎたらひかれるかもしれないし、演技し過ぎたら疲れるし…。そうやって悩む自分を受け入れたい。すぐ「自分はこういう所が悪いんだ」とへこむので、ありのままの自分を認められるようにしたい。

『「リクエスト食」に込められた思い』 【生命の尊さ】

末期がんなどの患者が余命を過ごすホスピス。「リクエスト食」の取り組みは、単に好きな物やおいしい物を食べるのが目的ではない。栄養士や医師が、食を通して、一人一人の患者に寄り添いながら、その人の歩んできた人生を尊重し、生命のある限り幸せに過ごしてもらうために考えられたものである。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

- ・生命を大切にするという事は、医療的なケアをするだけではなく、患者さんの一人一人の心に寄り添って、最後の時間を大切に、幸せなものにしていくということだと分かった。
- ・幸せな気持ちで人生の最期を迎えることができるというのは、患者さんにとってすごく嬉しいことだと思った。どんな人でも歳をとって最終的には死ぬので、自分は誰かにとって大切な存在だと認識したり、幸せだった時のことを思い出したりすることで、残された時間を幸せな気持ちで過ごせる。自分もこんな最期を迎えることができれば嬉しい。

返信をありがとうございます。～道徳通信5月号の返信より～

- どんな場面においても、あいさつは人間関係を築き上げる上で大切だと思います。あいさつ三原則を習慣づけ、今以上により良いあいさつを心がけたいです。どんなあいさつを自分ならしてほしいかを考え、理想のあいさつを実践してほしいです。
- あいさつの大事さをご指導いただき、ありがとうございました。あいさつはコミュニケーションの第一歩であり、とても大切なものです。先生方はどなたもいつも気持ちのこもったあいさつを交わしてください、心が温まるとともに、頭が下がる思いです。
- これからも自分自身が気持ちの良いあいさつが出来るよう心がけていきますし、自らの姿勢をもって子ども達にも教えていきたいです。
- あいさつはとても簡単なようでも、心を込めてするあいさつと、ただ言葉だけ言うあいさつでは大きな差があります。改めてあいさつの大切さを知ることができました。
- 「行ってきます」「お休みなさい」は、仏さんに手を合わせてから、みんなに大きい声で言えています。5年まえくらいから、続いています。
- 「あいさつ」は、返事が返って来ると嬉しい。でも、出来ないときもあります。無理せずに、頭を下げたり、あとから低い声で言ったりしています。

ご返信、ありがとうございました

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。